

公立大学法人埼玉県立大学第3期中期目標（案）新旧対照表【主要項目－その1】

	第2期中期目標 (平成28年度～令和3年度)	第3期中期目標（案） (令和4年度～令和9年度)	主な改正理由	意見・指摘等
進路決定率	<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>(2)就職支援等に関する目標</p> <p>ア 学生が早い段階から将来への目的意識を明確に持ち、自己の将来設計を考えられるよう、就職や自立に向けたキャリア教育に積極的に取り組み、進路決定率（就職・進学）100%を目指す。</p>	<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>(2)就職支援等に関する目標</p> <p>ア 学生が早い段階から将来への目的意識を明確に持ち、自己の将来設計を考えられるよう、就職や自立に向けたキャリア教育に積極的に取り組み、進路決定率（就職・進学）100%を目指す。</p>	<p>《指標と数値目標を継続》</p>	<p>・現実的に達成困難な目標である。</p>
県内就職率	<p>イ <u>県内就職先の新規開拓に積極的に取り組むとともに、就職に関する情報提供・相談体制の更なる充実を図り、平成33年度までに県内就職率60%を目指す。</u></p>	<p>イ 県内医療・福祉・産業界等や卒業生との連携強化、県内就職先への学生の関心を高める取組の実施、就職に関する情報提供・相談体制の更なる充実等を図り、令和9年度までに県内就職率60%を目指す。</p>	<p>《指標と数値目標を継続》</p> <p>○県内就職率の向上を目指す取組の方向性をより具体的に明記した。</p>	<p>・県内出身学生の比率を高める取組や県内就職先への学生の関心を高める取組が必要。</p>
科学研究費助成金	<p>3 研究に関する目標</p> <p>(1)研究の方向性及び成果に関する目標</p> <p>ア 研究の方向性</p> <p>急速な高齢化の進行に伴う新たな保健・医療・福祉ニーズへの的確な対応など、地域の諸課題や時代の先端を見据えた実用的かつ実践的な研究に積極的に取り組むとともに、<u>各事業年度における科学研究費助成金の採択件数65件を目指す。</u></p>	<p>3 研究に関する目標</p> <p>(1)研究の方向性及び成果に関する目標</p> <p>ア 研究の方向性</p> <p>急速な高齢化の進行に伴う新たな保健・医療・福祉ニーズへの的確な対応など、地域の諸課題や時代の先端を見据えた実用的かつ実践的な研究や、より大型の研究に積極的に取り組む。</p>	<p>《指標・数値目標を削除》</p> <p>○中期目標では数値目標を定めず、中期計画において数値目標を定めた上で、より質の高い研究への積極的な取組を推進する。</p> <p>○件数の目標はこれまでに達成されているため、より大型の研究への取組など大学の発展段階に応じた新たな目標を、大学の自主的・自律的な判断により設定することとするもの。</p>	<p>・件数の目標は達成しており、今後は研究の質の向上、大型研究の採択に向けた取組が必要。</p> <p>・外部資金の獲得など自主財源確保の努力はしっかりするべき。</p>
自主財源比率	<p>4 自主財源の確保に関する目標</p> <p>自己収入の確保、経費の抑制、資産の運用管理に総合的に取り組み、各事業年度における自主財源比率（施設の大規模改修、高額備品の更新、退職給与金に係る経費は除く。）を44%以上とする。</p>	<p>4 自主財源の確保に関する目標</p> <p>自己収入の確保、経費の抑制、資産の運用管理に総合的に取り組み、各事業年度における自主財源比率（施設の大規模改修、高額備品の更新、退職給与金に係る経費は除く。）を44%以上とする。</p>	<p>《指標と数値目標を継続》</p>	<p>・外部資金の獲得など自主財源確保の努力はしっかりするべき。</p>

公立大学法人埼玉県立大学第3期中期目標（案）新旧対照表【主要項目－その2】

	第2期中期目標 (平成28年度～令和3年度)	第3期中期目標（案） (令和4年度～令和9年度)	主な改正理由	評価委員会における 意見・指摘等
評 価 委 員 か ら の 意 見 関 係	大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標 (3) イ（新設）	大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 研究に関する目標 <u>(3) 教育の質の向上に関する目標</u> <u>イ 専門職連携教育の推進</u> <u>地域共生社会の実現など地域の課題解決を図ることができる人材の育成に資する専門職連携教育の一層の充実を図るとともに、その意義や方法等についての積極的な情報発信に努める。</u>	○評価委員の意見を踏まえ、埼玉県立大学の強みである専門職連携教育の充実や情報発信を明記。	・ 県立大学の強みである専門職連携教育を充実させ、それが社会にどう貢献しているかということを評価し、発信していくことが必要。
	自己点検・評価及び当該情報の提供に関する目標 1（新設）	自己点検・評価及び当該情報の提供に関する目標 <u>1 定量的指標の活用に関する目標</u> <u>IRの活用により教育、研究、社会貢献活動など大学運営の各分野において業績評価指標を整備してその動向を検証・評価し、継続的に自己改善を図る体制を確立する。</u> <u>また、PDCAサイクルを効果的に機能させるため、定量的な目標設定に努める。</u>	○評価委員の意見や地方独立行政法人法の改正趣旨を踏まえ、継続的な自己改善を図る体制整備や定量的な目標設定に努めることを明記。 IR (Institutional Research) 大学運営に関する情報収集・分析	・ 数値目標を掲げ、それを目指して取り組むことが非常に重要。 ・ PDCAサイクルを機能させるためには、具体的な目標設定が必要。
	その他業務運営に関する重要目標 (新設) 3 社会的責任に関する目標 法令等の的確な遵守、人権意識の向上など、大学の社会的責任を十分に踏まえた取組を積極的に実施する。	その他業務運営に関する重要目標 <u>3 危機管理に関する目標</u> <u>首都直下地震等の大規模災害及び新興感染症の発生等に対応するため、業務継続計画（BCP）の作成等により危機管理体制を強化する。</u> <u>4 社会的責任に関する目標</u> 法令等の的確な遵守、人権意識の向上、 <u>ダイバーシティの推進</u> など、大学の社会的責任を十分に踏まえた取組を積極的に実施する。	○評価委員の意見を踏まえ、災害や新興感染症を想定したBCPの策定や多様性の尊重等を明記。	・ 新型コロナウイルス感染症により生活様式などの変革がもたらされており、大学運営にもBCPの策定や多様性の尊重などが求められる。